

■開催概要

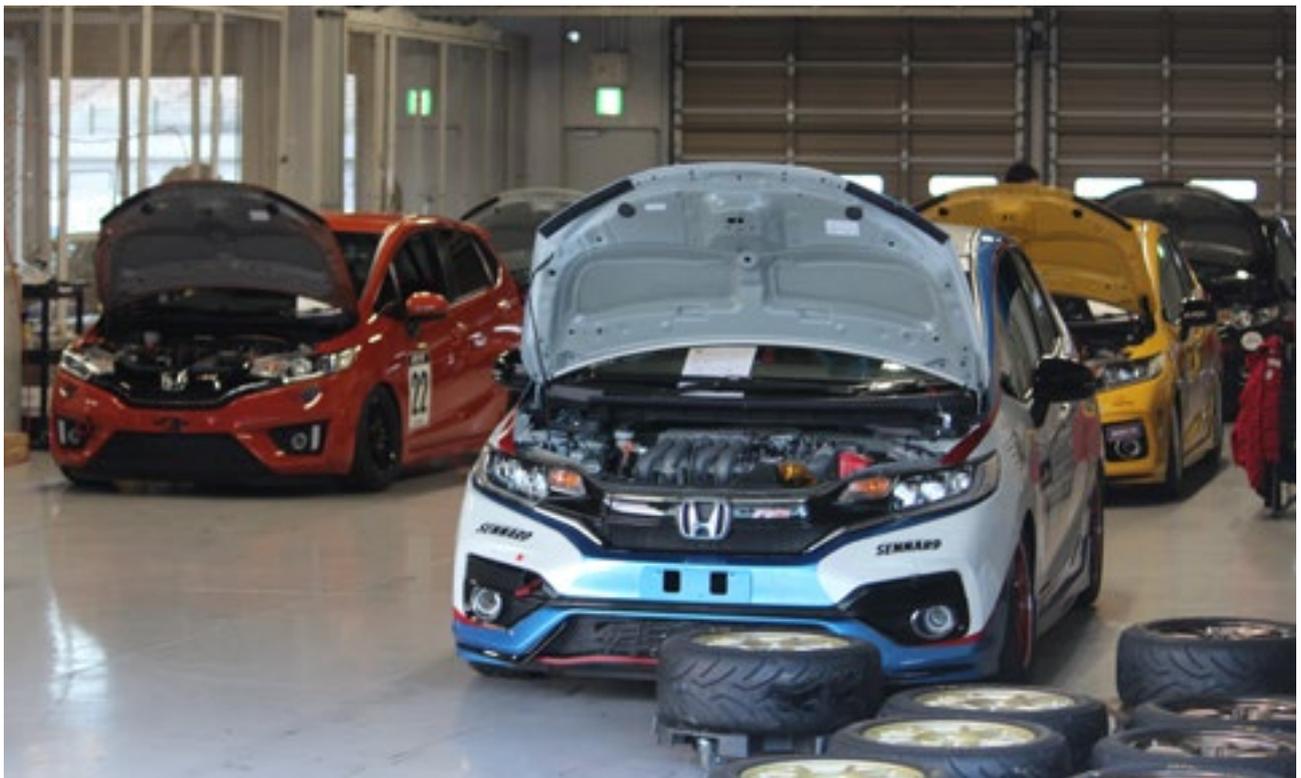
- シリーズ名称 : 2021 鈴鹿クラブマンレースRound 6
- 併催レース : TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2021西日本シリーズ第4戦
- 主催 : オートスポーツクラブアツタ (AASC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : ARC、ARCN、KRHC、OCCK、チーム淀
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2021-2005
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数/146台
フォーミュラEnjoy/21台
FIT 1.5 Challenge Cup/22台
FFチャレンジ/25台
NゼロVitz関西シリーズ/26台
TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2021西日本シリーズ第4戦/52台
- 開催日 : 2021年11月27日(土)・28日(日)
- 天候 : 晴れ一時雨/27日(土)、晴れ/28日(日)
- 路面 : ドライ→ウェット/27日(土)、ドライ/28日(日)



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2021/clubman/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2021 鈴鹿クラブマンレースFinal Round
- 開催日 : 2021年12月11日(土)・12日(日)
- 主催 : 淀レーシングクラブ(チーム淀)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催クラス : CS2、フォーミュラEnjoy、F4日本一決定戦、スーパーFJ日本一決定戦、クラブマンスポーツ (VITA) 日本一決定戦



「FIT 1.5 Challenge Cup」と「FFチャレンジ」は今回が最終戦。ともにシリーズチャンピオンが決定した。写真は出走時間を待つ「FIT 1.5 Challenge Cup」の参戦マシン。

いよいよシーズンも終盤戦。 チャンピオン奪取のため、接戦が展開された第6戦。

入場ゲートにて検温が実施され、入場が制限された場内ではマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保が徹底されるなど、新型コロナウイルス感染拡大に対する対策を講じた上で鈴鹿クラブマンレースの2021年シーズン第6戦が開催されました。今回も11月27日(土)・28日(日)の2DAY大会として行われ、「FIT 1.5 Challenge Cup」「FFチャレンジ」「フォーミュラEnjoy」といった鈴鹿クラブマンレースでおなじみの各カテゴリー、今シーズンから新たに鈴鹿クラブマンレースに組み込まれた「NゼロVitz関西シリーズ」、ワンメイクレースの「TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup」のレースが開催されました。

特に注目を集めたのは今回のレースでチャンピオンが決まる「FIT 1.5 Challenge Cup」と「FFチャレンジ」。また、第5戦で開催予定だったのが延期となり、今回開催された「NゼロVitz関西シリーズ」に26台、「TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup」に52台がそれぞれエントリーするなど、盛況だったこれらのワンメイクレースも盛り上がりました。

「フォーミュラEnjoy」が2レース制によって行われたことも今回のトピックでした。27日(土)のRace1、28日(日)のRace2のスターティンググリッドがそれぞれ公式予選でのベストラップ、セカンドベストラップによって決まるということで時間枠をフルに使った激しいタイムアタック合戦が繰り広げられました。また、Race1、Race2ともにひと時も目が離せないバトルが披露されました。

全レースが史上初めてフルコースを舞台に行われている今シーズンの鈴鹿クラブマンレースも残すは12月11日(土)・12日(日)の最終戦のみ。「F4」「スーパーFJ」「クラブマンスポーツ(MITA)」の3カテゴリーでは日本一決定戦も開催されます。見どころが多いこの最終戦にも是非ご注目ください。



前身の「Netz Cup Vitz Race」同様、レースデビューに適したワンメイクレース「TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup」が併催された

■フォーミュラEnjoy Class / Race1

ポールポジションスタートの小嶋禎一が良いクラッチミートを披露するが、2番グリッドスタートの山根一人がホールショットを奪う。路面温度が低いいためか、スタート直後からスピンしたりコースアウトしたりするマシンが続出。辰巳秀一、小嶋、中嶋匠、山根のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。辰巳と小嶋の2台がテールtoノーズのバトルを展開。2周目のスプーンカーブでも接触したマシンがあったことにより、辰巳と小嶋は集団を抜け出すことに成功する。何度も辰巳に並びかけた小嶋が満を持して5周目にトップに。しかし、7周目に小嶋がコースアウト。単独トップとなった辰巳が総合優勝を飾った。



ポールポジションを獲得したのはこのカテゴリーに初めて参戦した小嶋。その小嶋がポイントリーダーの辰巳秀一と好バトルを展開した



トップチェッカーを受けたのは辰巳(写真中央)。2位は中嶋(写真左)。T.山口(写真右)が3位でレースを終えた

■フォーミュラEnjoy Class / Race2

Race2のグリッドは公式予選でのセカンドベストによって決まるが、トップタイムをマークした小嶋禎一はRace1でのレギュレーション違反(妨害行為)のため5グリッド降格。これによりポールポジションスタートとなった山根一人がホールショットを奪うが、オープニングラップをトップで帰ってきたのは辰巳秀一。それに山根、T.山口と続く。辰巳は逃げ切り体制に。小川涼介、大川文誠がT.山口と山根を立て続けにパス。小川が2番手、大川が3番手となる。12番グリッドスタートの山崎一平が大川、小川を立て続けにパスして辰巳にも接近すると6周目にトップに。山崎が大逆転でトップチェッカーを受けた。



前日と違って変わって良い路面コンディションとなったRace2。山根がRace1に続いてホールショットを奪う



山崎(写真中央)がフォーミュラEnjoy初優勝を決めた。2位は辰巳(写真左)。大川(写真右)が3位となった

■フォーミュラEnjoy Class / Race2



マイスターズカップのウィナーは総合3位の大川(写真中央)。Ryu Mao (写真左) がRace1に続いて2位。亀蔵(写真右) が3位となった

■FIT 1.5 Challenge Cup Class

ポールポジションスタートの西尾和早が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。2番グリッドスタートの岡田拓二、4番グリッドスタートの伊藤裕士がそれに続く。その3台はオープニングラップから後方を引き離すことに成功。そこからさらに西尾が抜け出す。単独トップとなった西尾の後方で岡田と伊藤がテールtoノーズのバトルを展開。その後方に3番グリッドスタートの窪田俊浩が接近する。さらにオオタクウヤ、杉原悠太、松尾充晃が続く。伊藤が5周目のメインストレートで岡田に並びかけるが、パスするには至らない。そのバトルの間もリードを広げ続けた西尾がトップチェッカーを受けた。



今回の最終戦はポイントリーダーの西尾とランキング2位の岡田がフロントローに並んでのスタートとなった



西尾(写真中央)がトップチェッカーを受け、初のチャンピオンに輝いた。2位は岡田(写真左)、3位は伊藤(写真右)

■ FFチャレンジ Class

フロントロースタートの林陽介と武田泰一が横並び状態でスタート。2番グリッドスタートの武田がホールショットを奪う。武田、林(陽)、神原聖一、林大輔、関勇紀、大東寛一のオーダーでオープニングラップを終了。武田、林(陽)、神原聖一、林(大)が関以降を引き離し、テールtoノーズのバトルを展開する。次第に武田と林(陽)、神原と林(大)がトップグループ、3番手グループに。4周目に林(大)が神原をパスすると、トップグループに接近していく。4周目のシケインで林(陽)が武田をパスしてトップに。しかし、すぐにトップに返り咲いた武田、林(陽)、林(大)のオーダーでチェッカーを受けた。



ポールポジションを獲得したのは林陽介。ランキングリーダーの住直哉は13番グリッドからのスタートとなる



クラッシュしたマシンがあったことにより、セーフティカーが介入。ウィナーとなったのは武田(写真中央)。3位に入賞した林(大)(写真中央)の初チャンピオンが決まった

■NゼロVitz関西シリーズ

2番グリッドスタートの大岩拓矢が絶妙なクラッチミートを披露するが、ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの大崎達也。その大崎、4番グリッドスタートの三谷明正、大岩のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。大崎は徐々に後続を引き離すことに成功。國枝惣一郎が宮田耕治をパスし、大岩に続く4番手に。そのバトルの間も大崎は危なげない走りを披露。その後方で三谷も単独2番手に。さらにその後方で大岩、國枝、宮田、増井大輔がテールtoノーズの状態ですべて3位の座を争う。三谷はファイナルラップで大崎のテールを捉えたが、パスするには至らず、大崎が今シーズン初優勝を飾った。



ポールポジションを獲得したのは公式予選で唯一2分46秒台をマークした大崎。その大崎がレース序盤から後続を引き離す展開に



三谷とのバトルを制した大崎(写真中央)がトップチェッカー。総合2位の三谷(写真左)がポイントリーダーの座をキープ。大崎がランキング2位に浮上した

■TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2021西日本シリーズ第4戦

ポールポジションスタートの森口優樹、2番グリッドスタートの川村剛士のオーダーで1コーナーへ。メインストレートで2台が接触してクラッシュしたことにより、セーフティカーがIN。リスタート後、頭ひとつ抜け出した森口の後方に川村、迫田善貴、神谷裕幸と続く。迫田と神谷がサイドbyサイドの状態になると、神谷が前に。既にチャンピオンを決めている大島和也が5番手で続く。川村、神谷、迫田がスリーワイド状態で1コーナーに進入。神谷が2番手に浮上すると、その直後、川村がデグナーカーブでコースアウトする。次第に神谷が森口の背後に接近したが、森口がトップチェッカーを受ける結果となった。



トヨタYarisによるワンメイクレースが「Yaris Cup」。鈴鹿サーキットでは2021年鈴鹿クラブマンレース第3戦で初開催され、今回が2回目。



オープニングラップでのクラッシュによりセーフティカーが介入したこのレース。森口(写真中央)が ファイナルラップまで続いたバトルを制し、ポールtoウィン
を飾った

■TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2021西日本シリーズ第4戦



総合表彰の他、CVTクラスのカテゴリー別表彰式も開催された。カテゴリー別ウィナーは総合27位の荒川美恵子(写真中央)だった

Voice

of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

FIT 1.5 Challenge Cup Classで優勝

西尾 和早 選手(クローズアップR's Design制動屋Fit3)



Q: 公式予選で2番手以降にコンマ8秒ほどのタイムギャップを築いてポールポジションを獲得しました。なにか作戦はありましたか。

「作戦は特になく、自分が持っている力を出し切ろうと考えていました。メインストレートに戻ってきてコントロールタワーに表示されているタイムを見たら、すごいタイムのドライバーがいる。“この速いの誰や?”と思ったら自分でした。思っていた通りの走りができましたし、思った以上のタイムが出て良かったです」

Q: 後方を引き離し続ける決勝レースになりましたね。

「公式予選でタイムギャップがあったので先行逃げ切りを狙っていました。その通りの走りができました」

Q: ランキングリーダーとして臨み、見事チャンピオンを決めた今回の最終戦。どのような印象のシーズンでしたか。

「このカテゴリーは3年目です。タイムの出し方やバトルの戦い方などを考えながらのスタートでしたが、昨年からのあたりがだいぶわかるようになりました。今シーズンは5戦中4勝でき、シリーズチャンピオンを獲得できました」